山岳クラブ／グーテンタータ（ドイツ語　こんにちは）

月　報　やまふみ

新春
合併号

No.219　2014年（平成26年）2月2日発行　山踏み

会　　長　／MT
事務局長　／TK
ホームページ／http://guten-nagano.com/
編　　集　／ST　UR　KK
印　　刷　／中央プリント（株）

目　次

山行報告 ……2～10
次回担当＆編集後記……10

12 月　8 日(日)　西上州　立岩（例会山行）

K池　Y本　U木　S水　S木
天気：晴れ
行程：線ケ滝登山口　9:40→10:50　東西立岩コル→11:15　東立岩→11:55　西立岳　12:15→13:00　威怒牟幾不動→13:45 線ケ滝登山口

冬場、雪が少なく晴天率が高い西上州の奇岩や岩峰等変化に富む山々。先月の表妙義山に続き、今回は西上州のドロミテと言われる？立岩。コースタイム 3 時間程。南牧村のパンフの難易度は中級、同パンフで上級とされる毛無岩の経験が有るため、これはハイキングコースとルンルン気分で参加。

狭く、ヘアピンカーブ連続の田口峠を越え羽根沢から登山口へ向かう。やがて立岩が正面に見え始め、星尾大橋からは双耳峰の立岩が美しい。垂直に切れ落ちた岩山のどこから登るのか？ 毛無岩とは違うように感じ、ルンルン気分が薄れた。

駐車場に着くと既に 2 台の車有り、さすが上州のドロミテ。登山口から線ケ滝に注ぐ沢を渡る橋は、既存の橋が流され後急遽作られたような丸太 3 本をまとめた橋、歩くと上下に揺れ不安定。案内板に従い杉林や雑木林の急登を進むと所々にベンチ有り。途中、距離は短いものの雨で流されと思われる崩れた登山

道のトラバースが何箇所か有り気を引き締めて進む。

やがて東西立岩の鞍部に向かう直登のガレ場、鎖は付いているが浮き石だらけの道、落石を起こさぬよう進む。先行者が鎖を持った時「ラク」の声、幸い石は手前で止まった。鎖を持った時、鎖が触れて石が落ちたらしい。

鞍部での小休止後、笹藪を通って東立岩に向かう。薄い踏み跡に従い、痩せ尾根、トラバース、木の根を掴んでの急登などを進み東立岩に着く。ここより目標とする最高点の西立岩山頂に人影が小さく見える。

鞍部に降りて西立岩へ、東立岩より道はハッキリしている。鎖場や痩せ尾根のアップダウンを繰り返しが続く。木彫りの地蔵尊を過ぎると西立岩山頂。毛無岩、八ヶ岳を眺望しながら行動食を摂るが、冷たい空風を避けて早々に下山開始。西立岩からも鎖や痩せ尾根の連続、やがて威怒牟幾不動に着く。岩からしみ出る水と思ったら岩の上から落ちる滝、水量があれば圧巻眺めと想像。杉林を下り登山口に戻る。

折角だからと線ケ滝を観に行く。断崖を一直線に落ちる落差40メートルの滝は圧巻。

想像したより厳しい山行だったので、家に戻り自分が登った毛無岩ルートを確認。滝山登山口から登っており、パンフに書かれた上級ルートとは異なっていた。

Y本記

12/7(土)　恵那山(例会山行)

T塚、 K池、Y本、 S水、 H部、 T口

広河原手前 P 6:35～広河原登山口 7:06～大川入山への稜線 9:40～山頂 10:13～避難小屋(昼食) 10:28-10:48～最高地点 10:55～山頂 11:10～広河原登山口 13:08～広河原手前 P 13:36(所要時間 7:01　沿面距離 13.8km)

楽しみにしていた山岳クラブ GutenTag 初山行です。週末は天気が崩れるとの予報が直前になって晴れのち曇りに変わり「登山天気」のサイトによると風も2000mで10m/s程度との予想でした。

T塚さん以外の長野組は 4:00 南長野運動公園 P で Y 本さんの車に4名が乗りこみ、姨捨 SA の高速バス亭で H 部さんを拾って中央自動車道を飯田山本 IC で降ります(いちばん近

いのは園原 IC ですがこの IC は名古屋方面からしか乗り降りできないなので注意）。
国道 153 号を昼神温泉方面へ進むとほどなくしてコンビニがあり、仕入れた朝食を車内で食べながら集合場所の広河原手前の登山者用 P に着くと T 塚さんも着いていました。

支度をして登山開始が 6:35（標高 1144m）、林道はところどころ凍結しているので注意して歩きます。そこかしこの水たまりは薄氷が張っているのと、張っていないのがあり、それほど気温は低くなさそう。トンネルを抜けてすぐの広河原登山口(P から約 1.8km 標高約 1250m)に着いたのが 7:06、林道歩きは約 30 分でした。ここから K 池さんを先頭に S 水さん、H 部さん、Y 本さん、新米の T ロ、L の T 塚さんの隊列で進みます。本谷川のハシゴ橋に雪がついていて要注意。その先は傾斜が急になりますが約 800mで尾根道となり、頂上まではそれは変わりません。「暑くありませんか」とのリーダーの声で一本取ることに。ほとんど無風でしたがそれにしても先頭の K 池さんの明るい藤色の半袖が文字通りクールでした。道はせいぜい 10cm 程度の積雪でしょうか。歩きやすいしまり具合です。右の方に葉を落としたカラマツ越しに恵那山の頂上がすぐにも手が届きそうに見えてきます。標高が 1800m を過ぎてくると後ろの方にピラミッドのような塩見岳など南アルプスの山容がきれいです。

「0/10」「1/10」・・・という標識があり、道ははっきりしているので積雪期でも間違えにくいと思われます。P から約 5.4km のあたりで頂上から直接伸びる尾根に乗り換えます(標高約 2060m)。少し雲量が増えてきて気温も低下、風も出てきました。K 池さんまだ半袖です。頂上付近になってくるとなんとなく暗くなり樹枝に霧氷が着いていて　今までの明るい春山のような雰囲気から一転、冬山の様相になってきました。周囲も見えません。H 部さんの武勇伝の話題で盛り上がりながら歩いていると疲れをあまり感じないうちに展望台のある山頂に着きました（10:13）。

山頂はコメツガかシラビソ（ごめんなさい、私区別がつきません、つかなきゃ書くな、と言わないでね）の樹林に覆われていて展望台に登ってもあまり展望が利かない様子。記念写真が撮れたのは L が用意してきてくれた三脚のおかげでした。K 池さん長袖着ちゃったの？

さて標識には「恵那山 2190m」とあります。確か 2191m じゃなかったっけ、と思っていたら L がこれから避難小屋経由で最高地点に行くよ、とのこと。世の中にはわからないことがあるものです。山頂と最高地点は違うんですね。初めて知りました。避難小屋の方へ進み始めると立派なお社があります。ちょっと歩くとまたお社、え、またお社。いったいいくつお社があるの？　恵那山の山名は天照大神の胞衣（えな）を納めたとする伝説に由来するといわれる、と百名山ガイドにあります。山頂の恵那神社奥宮には 7 つもの社が置かれているのも頷ける信仰の山なのですね。
避難小屋の手前には立派なトイレがあり、小屋は薪ストーブ付きで設備が整っています。これならいざというときに役に立ちそう。20 分間で簡単に行動食を済ませます。小屋の横には雰囲気のある岩があり、L によれば「あの岩に登ると景色がいいよ」とのことでしたが　あたりは白いばかりなので今日はパス、最終目的地 最高地点（標高 2191m）に向かいます。

最高地点も眺望に恵まれず長居はしないで即、下山開始、山頂から少し下るとまた青空が戻って来ましたが南アルプスの山頂付近がちょうど定規で引いたように雲の下端の線に隠れています。「見えそうで見えないところがせくしー」と誰かが言っていました。下りはほとんど休憩なしにステディなペースで歩き、無事に P まで着くことができました。結局アイゼンを着けることはありませんでした。

立ち寄り温泉は月川（ゲッセン）温泉 600 円也、そこのおススメの蕎麦屋さんで平打ちのお蕎麦をいた

だいて帰途に着きました。みなさまのおかげで私の初山行は楽しいものになりました。本当にありがとうございました。　　Ｔ口　記

12月21日(土)～22日(日)　西穂高岳（例会山行）

L:T 島　SL:M 井　Y 本　H 岡　D 原
天気:雪
1 日目　新穂高ロープウェイ上 12:30　西穂山荘 14:30(幕営地)
2 日目
先発隊(T 島、M 井);西穂山荘 6:30　→丸山 7:00→独標 8:50→西穂山荘 10:40(テント撤収)
後発隊(Y 本、H 岡、D 原);西穂高山荘 7:15→丸山 7:45→　強風のため標高 2590m付近から撤退開始 8:35→　その後先発隊と合流して下山

松本合同庁舎で合流し、新穂高温泉へ向かって出発。松本は青空も見えていましたが、安房トンネルをくぐるとそこは別世界。雪で真っ白、空はどんより、雪も舞っていました。

ロープウェイ乗り場下の大駐車場に車を止め、荷物を背負い、いよいよ出発。ロープウェイの往復切符を買って乗り込みました。こんな悪天候にも関わらずロープウェイは満員状態。登山装備の人たちもかなりの数でした。中間駅まで3分。乗り換えてさらに7分。

ついに登山開始。私は、雪山テン泊初トライ。山荘までの道はできていましたが雪が深く、荷の重さにも慣れないため、急な登りでは息が上がり、何度も小休止を入れてもらいました。

山荘に到着すると、すでに大小のテントが１０張ほど。我々も荷物を降ろしてすぐに場所を探し設営です。雪は軽くて柔らかいのですが深さは腰下くらいありました。ペグが見つからず、T 島さんが木の枝を折って代用。私は見よう見まねでお手伝いするもあまり戦力にはなれず、皆さんの働きにただただ感動。1日目はここまで、後はテントの中で火を焚いて夕飯です。持ち寄った材料でお鍋です。味付け担当は H 岡さん。鳥スープの優しい味でした。おなかも一杯になって8時には就寝。トイレは山荘の外にあるものを使わせてもらえました。でも穴が開いているだけでつかまる所もないのでスリル満点です。落ちないように注意。

翌朝は5：00起床。風が強く、出発は明るくなるまで様子を見て出発になりました。

西穂登頂を目指す先発隊が出発して約40分後、私たち後発隊も独標目指して出発。

稜線にでると、まともに前を見られないくらいの雪と風。さすが冬の北アルプス、仕方ないと自分に言い聞かせ、気合を入れて先頭の Y 本さんを追いつきました。

丸山でひと息つき、さらに先へ進みました。急斜面で、私は左のアイゼンが外れる大失態。その間にも天候はどんどん悪化。そこで、独標を断念し引き返すことになりました。帰りは前を歩く人の姿はほとんど見えず、すぐに

トレースも消えてしまう状態の中、道を探りながら下山。先発隊も独標で引き返してきたとのこと。山荘で温かいものを飲み食いしながら体を温めているときは幸せでした。その後、テントを回収して下山。

この日も多くの団体登山者とすれ違いました。登頂はできませんでしたが、北アルプスの厳しい冬を体感できたことや、冬のテン泊の楽しさを味わえたことは私にとってこれからにつながる大きな体験でした。

D 原　記

2014 年 1 月 1 日（水）飯縄山元旦登山（例会山行）

L:M 井　、SL:S 川、M 下、D 原、T 口

一ノ鳥居（標高 1130m）P7:17→登山口 7:43～7:53→駒つなぎ（小休止）8:40～8:46→飯縄神社（休憩）9:58～10:13→山頂（1917m）10:28→飯縄神社（休憩）10:41～11:07→中社への分岐　11:15→神告げ温泉（1208m）P12:58　行動時間 5:41　累積標高+999m、-921m、距離 9.51km

初日の出が拝めたら最高！と思っていたら天気予報は曇り。M 下さんを除く長野組四名はS 川さん宅で待ち合わせて　車デポの関係で2台に分かれて戸隠を目指す。下山地点の神告げ温泉にS 川さんの車をデポしてM 井さんの車に4人で乗り、前日近くの宿に泊まったというM 下さんと一ノ鳥居で落ち合った。そうそう、下山後の温泉のため、入浴グッヅはデポ車に置いとかなきゃね。宮下さんはデポ車に置くことができませんでしたが　よくわかってて最低限のものを持って登山するとのこと。

飯縄山は戸隠山、黒姫山、妙高山、斑尾山と共に「北信五岳」の一つに数えられる古くからの山岳信仰の山だそうな。長野市民の山として親しまれ、登山とみられる車もけっこう駐車している。

歩き始めてすぐ、東南方向に初日を発見、「これさえ見れればもう帰ってもいい」とか言い出す人も（私）。諦めていただけにうれしかった。歩き始めて5分、先頭の S 川さんが突然「トラブル発生」と言って立ち止った。「車のキーを三井さんの車に忘れてきた。取ってくるから先行ってて」とのこと。相談してその通りにすることに。登山口に着いて約10分すると志川さんが息せき切って駆けつけてきた。しばらく休んだら、との声を尻目にどんどん歩き始める。後で聞いたらほとんど駆けてきたとのこと、すごい体力ですね。S 川さんご苦労様です。

積雪は1mはあるでしょう。M 井さんは何回もここに元旦登山に来ているそうで例年に比べ積雪は多いとのこと。でも、入っている人は多くトレースは踏み固められていて登りの前半は夏道よりかえって登りやすいくらい。それにしてもS 川さんのペース速い。残りの4人はどんどん離れていく。下山してくる人と何人も出会う。何時頃入山したんだろう。

標高で言うと 1300m くらいから傾斜が急になる。雪が締まっていて滑る。アイゼンを着けた方がいいかなと思うくらいだが、雪山はビギナーという D 原さんも頑張るな。平坦なところに着いたら一本取ろうと言っていたら　そのうちに駒つなぎの場に到着、ここは少し平坦で休憩にいいところだ。若い女の子 2 人のパーティと出会って三井さんが GutenTag においでよと勧誘、調子に乗って私が「平均年齢が下がるから」と言ったら M 下さんのひんしゅくを買った。

また登り始めてから1時間ちょっとで山頂近くの飯縄神社に着いた。ここは扉こそないものの十分避難小屋として使える作りで S 川さんは　ここにテントを張ったことがあるとのこと。少し、休んで行動食を食べてからいよいよ山頂へ。

山頂は眺望なく記念写真を撮ってすぐに下山開始、飯縄神社に戻って 25 分ほどの昼食休憩を取る。M 井さんと S 川さんはカップラーメンが美味しそう（パシャ）、アンパンを食べる M 下さん（パシャ）、V サインの D 原さん（パシャ）、おしゃべりが弾んだ。

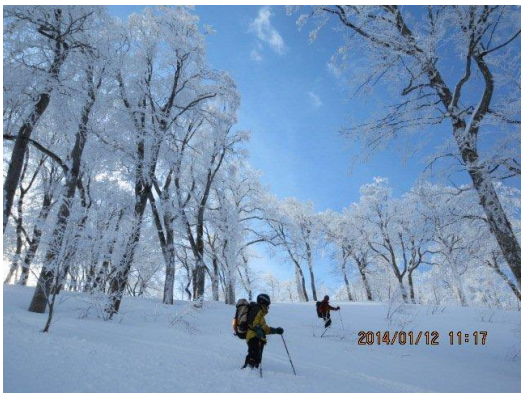
下山路は少し戻って　分岐を中社方面へ。トレースが全くなく三井さんの指示で、飯縄神社で予め装着したワカンが正解だった。ここは、歩き始めの尾根が明確でなく注意が必要な個所だ。下山路は全く休憩を取らずに長いゆるい傾斜の尾根をひたすら下り神告げ温泉に着いた。温泉の入浴料は 600 円、ソフトクリームを食べ、無料のそば茶を飲みながらしばらく話をした後　デポしていた S 川さんの車で一の鳥居に戻り、帰路に着いた。

元旦登山と言うのはやはり何か特別ですね。同行のみなさまのおかげで大変楽しい山行になりました。ありがとうございました。　　Ｔ口　記

2014 年 1 月 12 日（日） 鍋倉山スキー（個人山行）

L ;K 原　K 池　T 井

池の平積雪 120cm なので、急遽さかえスキー場積雪１９０cmの鍋倉に変更。結果オーライでした(^_^)/~



三連休のなか日かつ一番の好天気日だけあって、温井には既に十台程の先着車あり。7:55 出発。やはり雪は少なめだが、ゆっくりトレースを辿る。前日の新雪が軽そうで下りに期待が持てる。750m 小屋先から尾根に取り付く予定だったが、先行者は直進なので後を追う。800m 過ぎた辺りから斜面に取り付く。何時もの尾根からブナ太郎の生えている崩壊凹地を隔てた北側の尾根だ。標高を稼ぐにつれて、梢に雪を纏ったブナが青空に映えて美しい。やっぱり鍋倉は好きだ。10:50 山頂着。先着者 2 パーティ—数名。灌木はやや多めだが、無風快晴の空の下、360°のパノラマを楽しむ。

小休後直下のブナ斜面に突入!!（参写真:これは停止時）**おお、最高の粉雪!!　キモチイイ～!!** (*^_^*) 今まででで一番だ。抵抗なく軽く回転。あっという間にオイシイ斜面は終わり。最下部手前からトラバースし、昨年憎っくきスノーモービルに荒されてしまった今日最後のオープンバーンに到着。灌木はあるものの、気持ち良く一滑りしてラストハイライトは終了。

林道で一休みし、後は平坦地を下るのみ。雪もいくらか腐ってきた。720m からは BUSH 下の重い雪を

嫌って(滑れない訳じゃないけど面白かない)、林道を辿る。一滑りで車道着。
いつも湯滝♨なので今回は戸狩♨に立ち寄り。入ると誰もいない! **やった一貸し切りだ～(^_^)/~** (と思っていたら、学生っぽい団体が入ってきた(+_+))
後は車を飛ばし平静学園へ。まだまだ明るいうちに家到着。中高年はこの位が一番(^_^) さて、ビールは何時飲むの??→今でしょ!! という訳で喉を潤して本日のお楽しみは終わった。　　K 原記

キタさんのおまけコーナー

※登行ルートについて
幾つか考えられますが、代表的なものを紹介します。
①森太郎カール南尾根 ： 700m 林道カーブ下(水門管理 ？)小屋から支尾根に取り付く代表的ルート
谷中の微台地に上がり、740m から支尾根に取り付く。初め中斜面だが、まっすぐ上ればよい。1000m から傾斜が緩み、ブナ林の鍋倉特有の美しい景観を楽しみながら上る。凹地を挟んで右手に②コースの尾根が合わされば山頂は目の先。
② 森太郎カール北尾根 ： 750m～800m 付近から支尾根に取り付くルート
取り付き・中間部に中斜面(全く問題なし)、途中と山頂直下に緩斜面。ブナ景観は①より見劣りするが、カール内や関田峠方面の展望が良い。南～西風の強い時は①より風が弱い。
③谷底→黒倉山コル経由コース ： 風弱く急な上りが全くないコース
②コース北斜面を巻き気味に上る。途中から②尾根や山頂に登ることも不可能ではないが、斜面がキツイ上に雪が深いためラッセルに苦労する。残雪期以外お勧めできない。
※滑降ルートについて
Ⓐ山頂からのブナ林下パウダー急斜面満喫コース ： 北斜面のため 3 月に入ってもパウダーが残る。但し、雪質によっては雪崩る。
Ⓑ黒倉山コル経由谷底緩斜面コース ： 急斜面苦手な人向き。
Ⓒ②③尾根コース ： 緩斜面・中斜面のみで雪崩リスク皆無だが、低標高東尾根斜面のため、風や日差しの影響を受けやすい 。好気象条件下でないとパック・モナカ・湿雪になりやすい。
尚、下部平坦地以下は腐りやすい。好天時は山頂でのんびりしたいが、快適滑降を望むなら厳冬期といえども早い時間帯に下るのが得策。
※景観
毎回書いている通り県内でも有名なブナ林・変動地帯であり、興味のある人にとっては誠に魅力的な山である。

1 月 12 日(日)～13 日(月)　稲子～夏沢峠(個人山行)

＊＊＊　秘湯に満足、安らぎ山行　＊＊＊

L;H　M 下　Y 本
1 月 12 日　天気:晴れ
行程:みどり池入口 9:15→11:05 みどり池(しらびそ小屋)11:30→13:00 本沢温泉
1 月 13 日　天気:曇り一時雪
行程:本沢温泉 7:30→8:55 夏沢峠 9:05→9:45 雲上の湯→10:00 本沢温泉 10:20→11:35 みどり池 12:00→12:45 みどり池入口

1 日目

年末の雪訓・忘年会の懇親会で 1 月の 3 連休何処かに行こうとの話になった。好天の確率の高い雲取を候補に提案するが、遠いため賛同者少数。H さんに八ヶ岳で計画を委ねる。

H さんから、稲子湯～本沢温泉泊～硫黄岳往復又は、稲子湯～中山峠～黒百合ヒュッテ泊～天狗岳～夏沢峠～稲子湯の2計画が示される。本邦第 2 の高所にあると言われる秘湯の本沢温泉泊に魅力を感じ、硫黄岳を希望し実現。

国道141から松原湖方面に入り稲子湯に向かう。除雪は稲子湯まで、その先は 20、30 ㎝の積雪。轍が有るため大丈夫だろうと進むが、積雪が腹を擦ったためか数回ハンドル操作が利かなくなる。その都度少しバックして何とかみどり池駐車場に到着。既に多くの車が止まっており、スペース的にギリギリセーフ。

駐車場からは、明確なトレースが有り安心して雪道を進む。下山者にアイゼン使用について聞くと不要とのこと。青空と白銀、樹林の中を気持ち良く歩く。やがて、みどり池に到着、天狗岳が真正面にお出迎え、感謝、感激。

急な登りと下りを経て本沢温泉に到着。早速入浴時間の確認、2時 30 分までは混浴、それ以降 1 時間ごとに男女交代とのこと。ただし、混浴とは既に入浴している人が優先、早速湯殿に向かう。

真新しい建物、誰もいない。脱衣場から木の香りがﾌﾟﾝﾌﾟﾝ、木製の浴槽は 2 槽に分かれ左は熱、熱表示、右手は熱一文字の表示。右手の浴槽を桶でかき回せて入浴。深い浴槽に浸ると昔の五右衛門風呂を思い出す。最初は少し熱く感じたが直ぐに慣れ心地よい。談話室に戻り薪ストーブの柔らかな空気に包まれビールをゴクリ。日頃ノンアルコールビールで誤魔化かされていた脳が即座に反応し極楽、極楽との反応、夕食まで焼酎など飲みながら至福の一時。同伴者も入浴に大満足のご様子。消灯前に再度入浴した人は、体が温まり薄着になり寝たとのこと。

2 日目

朝 5 時 30 分ころになると周囲がザワザワ、朝食が 6 時 30 分のため荷物整理を始める、帽子が見当たらない、寝具やザック内を確認するも見つからない。代用品で対応することに。

曇り空、気温－15℃、一応行ける所までと出発。樹林の中は風が無いが鞍部などでは冷たい強い風に襲われる。9 時夏沢峠に到着。硫黄岳方向を見ると真っ白で何も見えない。リーダーが即決断、今日はここまで。途中、露天風呂に立ち寄り湯加減を確認。

本沢温泉でデポを回収する、気温は－13℃と若干上がっていた。山の方向は曇り空だが郷の方向は青空、恨めしい。駐車場からの帰り道、雪でタイヤのグリップ力が少なく度々の横滑り。

下山後、八峰の湯で八ヶ岳の山々を見ながら入浴して帰路。　　Y 本記

1 月 12 日（日）大渚山（1566m） 山スキー（個人山行）

メンバー：T 島（L）、S 川、M 井
行程：8：35 大草連集落発 11：10 稜線着 11：30 山頂着 11：40 西面滑降開始 12：00 登り返し 13：00 山頂 13：23 大斜面滑降開始 13：46 大斜面下 14：00 大草連集落着

8：35 大草連集落を出発。準備支度をしている間にも後続の山スキーヤーが続々と到着、3 連休の中日で天気予報もまずまずの大渚山は大賑わいである。集合地の白馬辺りでは道沿いの雪が少なく心配したが、大草連では十分な積雪量であった。しかしここ数日は積雪が無いのか、すでに立派なトレースが出来上がっており、ラッセルの必要もない楽な山行となった。ただ、急斜面で磨かれたトレースはシールが効かずに苦労した。

建物が顔を出した大渚山頂

2 時間半ほどで山頂稜線の一角にたどり着く。雨飾山もうっすらと顔を覗かせ、天気はまずまずである。西側にある山頂にはすぐに到着。まだ時期が早いのか今年は雪が少なく、いつもは隠れている山頂の建物が顔を覗かせている。検討の末、西隣の 1476mピークとの間のコルへ滑り込んでから北面に滑り込むこととする。ところがここは、片斜面の急斜面で木もあり滑りの楽しさは今一つ。250m程高度を下げてから早々に登り返す。

13：00 再度山頂着。この頃には晴れ間が広がって眺望もよくなった。今度は東の方のピークまで移動して大斜面滑降とする。すでに多人数が滑り込んだギタギタ斜面の東側のまだ荒らされていない斜面を選んで滑り込む。時間も時間なので表面が軽くパック気味の雪質でやや滑りづらい。林間や日陰に時折良い雪も残っていたが、1 月の大渚山にしては今一つの雪質であった。20 分ほどで大斜面下に到着。ここからの荒れた林道滑降が本日の核心であった。

14：00 大草連集落着。車の隣では「どんど焼き」の燃えカスがくすぶっていたが、グーテンターク 3 号には被害はなかった模様。途中、一風呂浴びてから、スキー帰りで混みだした白馬を後にした。

M 井記

12 月 26（木）・27 日（金） 北八ヶ岳 天狗岳（個人山行）

『今年こそ、八ヶ岳に登りたい！』が叶いました。
L;H　M 下
1 日目
10：00 茅野市役所駐車場集合、早昼食を摂り
12：30 渋御殿湯登山口出発（計画書提出）小屋までの標高差 550mの樹林帯を、林さんが2万5千図を拡大して高度計と比較しながら説明してくださる。私は、夏道も歩いていないルート。林さんが頼りです。
14：10 少し汗ばみながら、黒百合ヒュッテに到着。中は、広々としたスペースの奥に大きな薪ストーブ。

荷物置き場の棚にザックを置き、薪ストーブの前に座ると、暖かくて離れたくない気分。
食事スペースの手前にはこたつもあります。ウィークデーなので宿泊者は7人のみ。ゆったり気分を味わいました。

2 日目
7:15 小屋を出発。前日の予報どおり雪が舞い、30 センチ程も積もっています。先に出た人達のラッセルに感謝しつつ、登って行きます。途中は視界が利かず、雪の深い所もありましたが、9:30 東天狗岳山頂に到着。タイミング良く太陽が顔をのぞかせ、西天狗岳と硫黄岳を見ることができました。山頂では寒さのせいか、カメラのバッテリーが赤点滅。私達も寒いので早々に下りはじめます。少し下り、振り返ればまだ山頂に残る方たちのシルエットが。

10:30 黒百合ヒュッテに戻り、下山開始。
登山口まで戻り、渋御殿湯の温泉に浸かり、帰路につきました。年末ギリギリで八ヶ岳に登ることが叶い、とても幸せな山行でした。H さん、ありがとうございました。

M 下　記

編 集 後 記

年末に人間ドッグで胃カメラを受けたら毎年言われている慢性胃炎と診断された。急に医者にピロリ菌の検査を勧められたので受診を決めた。自分の父親が胃癌の手術をうけた同じに年齢になりそろそろくるまも知れないと予感がしていたのである。最近自分の親族の数人がピロリ菌の検査を受けたとの話を聞いていたのでちょうど良いタイミングであった。まずはドックで採血された血液で陽性かどうかを判断される。これが2週間くらいかかるそうだ。日本人のほとんどがピロリ菌の陽性らしいから私もそうだろうと思っていたらやはり陽性だった。そこでピロリ菌を抹殺する抗生物質を4錠を朝晩に1週間飲むことになる。下痢や腹痛や下血もあるとの話なのでちょっとビビる。1回目の薬を飲んでいるが思ったほど副作用はないがどうなるやら。それから2か月後に検査がありこれがまたそれからさらに2週間かかる。だいたい60％くらの確率でありまた陽性だとまた1週間同じ薬をのんでこれだと90％の確率で退治できるらしい。なんとも手間がかかる話だ。

／ ゾラ

越年山行に、今年は奥秩父の和名倉山～雲取山を周回する計画で出掛けた。秩父湖から和名倉山へ取付くと、すぐに積雪。連休前にドカっと降った雪がまだそっくり残って、トレースが全くなく次第とラッセルとなってしまった。結局大幅な行程の遅れにより、縦走は諦め和名倉山ピストンに2泊使ってしまい、雲取山での初日の出は見れなかったけど、元々目的が和名倉山だったので満足～。200名山にして年末年始に誰にも会わなかった山って凄くない？

／とっこ

編集の任について約 1 年、突然ですが来年一年グーテンを休会することになり編集の任を降りることになった。でも私がきっと山をやめられるわけはないだろうし、生活が落ち着いたらまた里山歩きや一般登山は再開します。でもザイルを使うようなことはきっとしなくなる（出来なくなる）だろうなあ。うーん、人間変われば変われるもんだ。とりあえず、1 年か 2 年後生活＆人間を落ち着かせて会にも復帰したいと思います。その時にはどうぞよろしく！あたたかく迎えてくださいませ。

／カタカナ